

(様式第10)

富大病総 第 179 号
令和 4 年 10 月 3 日
開設者名 国立大学法人富山大学
学長 齋藤 滋

厚生労働大臣 殿

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒930-8555 富山県富山市五福3190番地
氏名	国立大学法人富山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人富山大学附属病院

3 所在の場所

〒930-0194 富山県富山市杉谷2630番地
電話(076) 434 - 2315

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科	
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科		2小児科		3整形外科		4脳神経外科	
5皮膚科		6泌尿器科		7産婦人科		8産科	
9婦人科		10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科	
13放射線診断科		14放射線治療科		15麻酔科		16救急科	

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	漢方内科	2	病理診断科	3	形成外科	4	美容外科	5	リハビリテーション科
6	小児皮膚科	7	小児神経外科	8	小児眼科	9	小児耳鼻咽喉科	10	小児形成外科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43	3			566	612

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	414	113	435.2	看護補助者	57	診療エックス線技師	0
歯科医師	12	13	15.3	理学療法士	15	臨床検査技師	48
薬剤師	46	0	46	作業療法士	6	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	6	その他	0
助産師	49	2	49.7	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	695	8	701.2	臨床工学士	26	医療社会事業従事者	0
准看護師	0	0	0	栄養士	13	その他の技術員	33
歯科衛生士	2	2	3.5	歯科技工士	0	事務職員	126
管理栄養士	8	0	8	診療放射線技師	39	その他の職員	39

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	61	眼科専門医	8
外科専門医	30	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	6	放射線科専門医	4
小児科専門医	22	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	14
産婦人科専門医	15	救急科専門医	7
		合計	219

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (林 篤志) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

平成30年4月1日から、医療安全管理委員会構成員。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	427.3 人	9.3 人	436.7 人
1日当たり平均外来患者数	1231.6 人	77.2 人	1308.9 人
1日当たり平均調剤数		345.48	剤
必要医師数		115	人
必要歯科医師数		6	人
必要薬剤師数		15	人
必要(准)看護師数		263	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	459.17 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	25 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	268	m ²	病床数	23 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	36			m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	432 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	臨床検査自動化システム、血液ガス分析統合管理システムなど		
細菌検査室	96 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway96Siリファージュなど		
病理検査室	96 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	病理診断支援システム、パーチャルスライドシステムなど		
病理解剖室	113 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など		
研究室	7463 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細胞分析分取装置、電子線照射装置など		
講義室	358 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	388 人
図書室	3285 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	21万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.2	%	逆紹介率	65.4	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,469 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,427 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,248 人		
	D: 初診の患者の数		14,414 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
森岡 浩一	福井大学医学部附属病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
木下 実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
村田 美代子	富山県立大学看護学部		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	富山大学ホームページへの掲載。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経気管支的クライオ生検	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 気管支鏡を用い、経気管支的にクライオプローブによって病変組織を凍結することによって挫滅の少ない大きな検体を採取することが可能である。			
医療技術名	経気管支的超音波画像下リンパ節生検	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 縦隔リンパ節病変は悪性腫瘍転移や悪性リンパ腫などがあり組織診断が重要となる。超音波気管支内視鏡を用いて比較的的低侵襲に縦隔リンパ節生検を行うことが可能である。			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。(冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインJCS2009)			
医療技術名	経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 心房中隔欠損症に対してカテーテルにより閉塞栓を用いて閉鎖術を行っている。			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	421人
当該医療技術の概要 冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。			
医療技術名	心房(室)細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	161人
当該医療技術の概要 抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 慢性血栓塞栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	59人
当該医療技術の概要 手術に耐えられない、あるいは手術リスクが非常に高い患者さんに対して、カテーテルを用いた体への負担が小さい治療であるTAVI(バルーンカテーテルに人工弁を乗せて大動脈弁まで運び、バルーンを拡張して留置する手術)を行っている。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)による重症心不全管理	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 心原性ショック患者に対する経皮的補助循環装置である。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復システム	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 外科的治療が困難な重度の僧帽弁閉鎖不全症の患者に対して行う、経カテーテルに僧帽弁接合不全を修復する治療			
医療技術名	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 通常の治療で十分な効果が得られない難治性皮膚潰瘍に対して、患者から採取した多血小板血漿を創部に投与し潰瘍の上皮化を促進を図る			
医療技術名	難治性足底疣贅に対するスキャナ搭載炭酸ガスレーザー治療	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 足底疣贅は液体窒素などの一般的な疣贅治療に抵抗性を示し、難治性であることが多い。当科ではスキャナ搭載型CO2レーザーを用いて真皮深層レベルまでの過不足ない照射を行うことで、高い治癒率を得ている。			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	乳児血管腫に対する集学的治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 発症部位やサイズより通常の治療が困難な乳児血管腫に対して、プロプラにロール内服とレーザー照射を組み合わせる血管腫の治療を行う。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤に対するコイル塞栓術は一般に広く行われているが、頸部の広い動脈瘤の場合は治療が困難である。そのような場合にはステントを併用してコイル塞栓術を実施する必要があるが、治療技術には数多くの工夫や経験が必要である。北陸で最多。			
医療技術名	内視鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体手術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 手術顕微鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体手術は以前から広く実施されているが、高精細の神経内視鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体は、特殊なトレーニングを要するが、従来では完全に治療できなかった下垂体腫瘍も治療することが可能である。県内では最多。			
医療技術名	脳動脈瘤頸部クリッピング術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の根治術として古くから実施されている治療であるが、安全性を担保した上での治療を目指す場合、その技術的難易度は依然として高く、システマティックなトレーニングと多数の臨床経験を要する。県内では最多の手術件数を誇っている。			
医療技術名	もやもや病に対する複合バイパス術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 もやもや病に対するバイパス手術は、対象となる動脈径が0.3~1.0mmと極細径で高度のトレーニング、手術技術を要する。中部地域では当院が最多の手術件数を誇っている。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するフロー・ダイバーターを用いた治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 治療困難な内頸動脈瘤に対するフロー・ダイバーターを用いた血管内治療は、きわめて高度の技術を必要とし、学会からその実施を認可されている施設は北陸では当院が唯一である。			
医療技術名	小児脳・脊髄奇形に対する根治術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 小児の脳および脊髄の解剖、機能、病態を深く理解するとともに多数の治療経験が必要である。当院には2名の小児神経外科学会認定医が在籍しており、北陸では唯一の施設である。			
医療技術名	悪性リンパ腫に対する大量メソトレキセート化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 本疾患に対する大量メソトレキセート化学療法は副作用も多く、周到な準備と管理が必要である。血液内科、放射線科との緊密な連携も必要である。県内では最多の治療実績を有している。			
医療技術名	がんゲノム医療(遺伝子パネル検査の実施)	取扱患者数	132人
当該医療技術の概要 本検査は治療法が見つからないがん患者検体よりがん特有の遺伝子変異を同定し、薬剤を検討するものである。院内エキスパートパネルでは多数の専門家が集まり、高度な議論の上、治療薬の推奨を行っている。			
医療技術名	変形を伴う股関節疾患におけるナビゲーション手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 白蓋形成不全などの変性の強い股関節疾患に対しナビゲーション手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	変形を伴う脊椎疾患におけるナビゲーション手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 側彎などの変性の強い脊椎変形疾患に対しナビゲーション手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	膝疾患におけるロボット手術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 変形性膝関節症に対しロボットを用いた手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	脊椎疾患における3Dモデルと鋳型デバイスを用いた手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脊椎疾患に対し3Dモデルと鋳型デバイスを用いることにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	四肢悪性腫瘍に対する3Dモデルとオリジナルデバイスを用いた再建手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 四肢悪性腫瘍疾患に対し3Dモデルとオリジナルデバイスを用いることにより、再建を容易なものとし安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	上肢疾患におけるwide awake surgery	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 局所麻酔剤を用いwide awake surgeryを行うことにより、機能再建を安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	子宮内感染症起炎菌の迅速検査法と適切な抗菌薬治療の実施	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 切迫早産、早産例の羊水中の病原微生物を、当院で開発した偽陽性のない迅速高感度PCR法にて検出し、適切な抗菌薬治療を行っている。本迅速検査法を用いて切迫早産治療に役立てているのは、当院のみである。また、原因究明にも役立っている。			
医療技術名	培養脂肪幹細胞付加脂肪注入による乳がん術後の乳房再建	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 乳がん患者の脂肪20gから抽出した脂肪幹細胞を培養により大量に増やし凍結保存する。次に患者の腹部、大腿部から吸引した脂肪を遠心して精製した後に、解凍した培養脂肪幹細胞を付加し、脂肪注入の生着率を高め、低侵襲な乳房再建を行う。			
医療技術名	ルテチウムオキソドトロチド(Lu-177)注射液を用いる核医学治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 ルテチウムオキソドトロチド(177Lu)注射液を用いたソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法である。			
医療技術名	塩化ラジウム(Ra-223)注射液を用いる内用療法	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 放射性塩化ラジウム注射液を用いた骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌患者に対して行う RI 内用療法である。			
医療技術名	婦人科腫瘍に対する組織内照射併用腔内照射	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腔内照射と組織内照射のそれぞれの利点と欠点を補い合う発想で、通常腔内照射に組織内照射針を組み合わせた照射方法である。			
医療技術名	内耳造影MRI検査	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 メニエール病は内リンパ水腫が原因とされているが、生体における画像検査はこれまで存在しなかった。高解像度のMRIを用い、新たに開発された特殊な造影法で内リンパ水腫の画像診断が可能になった。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	33
取扱い患者数の合計(人)	1321人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	36
2	筋萎縮性側索硬化症	19	57	特発性拡張型心筋症	52
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症	3	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	5
6	パーキンソン病	166	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	25
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	47	66	IgA 腎症	27
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	23
13	多発性硬化症 / 視神経脊髄炎	92	68	黄色靱帯骨化症	9
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎 / 多巣性運動ニューロパチー	37	69	後縦靱帯骨化症	58
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀾症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	20
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	5
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	32	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	98	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	47
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	25	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	44
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	23
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	17
32	自己食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症 / 肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	19
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	6
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	51
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	32
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	6
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	134
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	139
43	顕微鏡的多発血管炎	13	98	好酸球性消化管疾患	14
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	13	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	4	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	166	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎 / 多発性筋炎	73	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	39	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	0
52	混合性結合組織病	27	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	31	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	6	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113 筋ジストロフィー	11	163 特発性後天性全身性無汗症	1
114 非ジストロフィー性ミトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	0	167 マルフアン症候群	0
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	5
122 脳表ヘモジデリン沈着症	2	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	3	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスムンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	1
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	2
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソトス症候群	0
145 ウエスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重症型急性脳炎	1	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	7	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	2	210 単心室症	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	2
215	ファロー四徴症	2	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無リボタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	6	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	20	270	慢性再発性多発性骨髄炎	4
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	4	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	2
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症(自己免疫性後天性凝固第 因子欠乏)	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	27

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308 進行性白質脳症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309 進行性ミオクローヌステんかん	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
310 先天異常症候群	0	322 ケチオラーゼ欠損症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
313 先天性肺静脈狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	326 大理石骨病	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316 カルニチン回路異常症	0	328 前眼部形成異常	0
317 三頭酵素欠損症	0	329 無虹彩症	1
318 シトリン欠損症	0	330 先天性気管狭窄症	0
		331 特発性多中心性キャスルマン病	1
		332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
		334 脳クレアチン欠乏症候群	0
		335 ネフロン癆	0
		336 家族性低リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
		337 ホモシスチン尿症	0
		338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	122
合計患者数(人)	2045

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料 (入院栄養管理体制加算)	・重症患者初期支援充実加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1入院基本料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・診療録管理体制加算 1	・後発医薬品使用体制加算 2
・医師事務作業補助体制加算 1 20対1	・病棟薬剤業務実施加算 1
・急性期看護補助体制加算(25対1,5割未満) (夜間100対1急性期看護補助体制加算) (夜間看護体制加算) (看護補助体制充実加算)	・病棟薬剤業務実施加算 2 ・データ提出加算 2 ・入退院支援加算 1,3 (地域連携診療計画加算) ・入退院支援加算 1,3 (入院時支援加算)
・看護職員夜間12対1配置加算 1	・認知症ケア加算 2
・看護補助加算 2 (看護補助体制充実加算)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算 2 イ精神病棟入院基本料等の場合
・無菌治療室管理加算 1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算 2	・特定集中治療室管理料 4
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ハイケアユニット入院医療管理料 1
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・総合周産期特定集中治療室管理料
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神病棟入院時医学管理加算	・小児入院医療管理料 2 (100点加算)
・精神科身体合併症管理加算	(無菌治療管理加算1) (無菌治療管理加算2)
・精神科リエゾンチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・栄養サポートチーム加算	・歯科外来診療環境体制加算 2
・医療安全対策加算 1	
・感染対策向上加算 1(指導強化加算)	
・患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料の注2	・肝炎インターフェロン治療計画料
・外来栄養食事指導料の注3	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・薬剤管理指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料1(生命維持装置使用)
・がん患者指導管理料 イ	・医療機器安全管理料2(放射線治療計画策定)
・がん患者指導管理料 ロ	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料 ハ	・持続血糖測定器加算(及び皮下連続式グルコース測定)(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料 ニ	・持続血糖測定器加算(及び皮下連続式グルコース測定)(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・外来緩和ケア管理料	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・染色体検査の注2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・骨髄微小残存病変量測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・腎代替療法指導管理料	・角膜ジストロフィー遺伝子検査
・一般不妊治療管理料	・先天性代謝異常症検査
・下肢創傷処置管理料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・院内トリアージ実施料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・夜間休日救急搬送医学管理料(救急搬送看護体制加算2)	・HPV核酸検出
・外来放射線照射診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来腫瘍化学療法診療料1	・検体検査管理加算()
・連携充実加算	・国際標準検査管理加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料(相談支援加算)	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料()	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胎児心エコー法	・呼吸器リハビリテーション料()初期加算
・ヘッドアップティルト試験	・がん患者リハビリテーション料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・認知療法・認知行動療法 1
・脳磁図(その他のもの)	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・脳波検査判断料1	・医療保護入院等診療料
・神経学的検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・補聴器適合検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・全視野精密網膜電図	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・ロービジョン検査判断料	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・小児食物アレルギー負荷検査	・多血小板血漿処置
・内服・点滴誘発試験	・硬膜外自家血注入
・経気管支凍結生検法	・人工腎臓
・画像診断管理加算 2	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・冠動脈CT撮影加算	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・センチネルリンパ節加算
・心臓MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)
・乳房MRI撮影加算	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・外来化学療法加算 1	・椎間板内酵素注入療法
・無菌製剤処理料	・腫瘍脊椎骨全摘出術
・心大血管疾患リハビリテーション料()初期加算	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・脳血管疾患等リハビリテーション料()初期加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料()初期加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・羊膜移植術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜再建術	・胸腔鏡下弁置換術
・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・人工中耳植込術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(開胸手術によるもの))
・人工内耳植込術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的の手術によるもの))
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・乳腺悪性腫瘍手術 乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・乳腺悪性腫瘍手術 乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(小児を対象とする場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・補助人工心臓

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・腹腔鏡下肝切除術 腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・生体部分肝移植術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出手術)
・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	・輸血管理料
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(十二指腸切除の場合)	・自己クリオプレシテート作製術(用手法)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・麻酔管理料()
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料()
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・同種死体腎移植術	・高エネルギー放射線治療
・生体腎移植術	・1回線量増加加算
・膀胱水圧拡張術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新敗血症定義に準拠した敗血症総合検査システム構築と国内及び東南アジアへ運用展開	北島 勲	医学部	4,030,000	補委	日本学術振興会
霊長類の脳進化を担う本能的認知機構(膝状体外視覚系)の神経生理学的特性解明	西条 寿夫	医学部	5,460,000	補委	日本学術振興会
マルチモーダル確率モデルによる若年精神疾患患者の転帰予測法の開発	鈴木 道雄	医学部	3,250,000	補委	日本学術振興会
M2マクロファージ制御による骨格筋損傷からの回復を促進する治療法の開発	戸辺 一之	医学部	3,380,000	補委	日本学術振興会
c-fos/AP-1阻害薬の疼痛制御機構とsc-RNAseq解析での椎間板再生	関 庄二	医学部	6,370,000	補委	日本学術振興会
新規NAD代謝経路の発見。老化制御と治療への展開	中川 崇	医学部	1,950,000	補委	日本学術振興会
社会経済的状況による健康格差:5年間の健診ビッグデータ分析	山田 正明	医学部	650,000	補委	日本学術振興会
多面的な生物学的指標を用いた精神病的障害の予後予測の試み	高橋 努	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
姿勢調節とリーチングに関与する高次運動野の機能局在と投射経路の解明	中島 敏	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
哺乳類の皮質下情動回路における運動発現機構の解明	西丸 広史	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
化学療法起因性の口内炎と口腔内細菌叢の関係を明らかにし予防方法を確立する研究	梶浦 新也	医学部	520,000	補委	日本学術振興会
新生児慢性肺疾患における細菌学的要因の特定と発症予防法の確立	吉田 丈俊	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
心筋緻密化障害の病態解明:転写因子TBX5下流経路の重要性に着目して	廣野 恵一	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
便秘症根治を目指したTRPV4チャンネルのメチル化異常の誘発と正常化因子の探索	三原 弘	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
IgG4関連呼吸器疾患におけるアレルギー性炎症の解析と新規治療法の探求	松井 祥子	保健管理センター(杉谷)	780,000	補委	日本学術振興会
生理学的薬物動態/薬力学モデルを応用した新たな抗MRSA薬個別化最適治療戦略	山本 善裕	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
肥満未病の鍵因子CD52による代謝疾患の予防と治療学的意義の解明	笹岡 利安	薬学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
血液循環癌幹細胞の免疫応答回避制御による新たな肺癌治療法の確立	吉岡 伊作	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
環境エンリッチメントは麻酔の質を向上させるかー扁桃体/海馬における脳科学的研究ー	廣田 弘毅	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症の病因に関するペリオスチンの役割の解明	川口 善治	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
軟骨再生治療への臨床応用を目指した羊膜基質コート担体の線維化抑制効果の解明と検証	野上 真紀子	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
化学療法抵抗性を有する転移性膀胱癌に対するエビジェネティックス治療確立	西山 直隆	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
CpGアイランドメチル化形質陽性腎細胞がんの個別化治療開発	北村 寛	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症解明から見えた新規オートファジー抑制機構の解明,治療法の開発	中島 彰俊	附属病院	520,000	補委	日本学術振興会
わが国におけるVaccine Hesitancyの実態解明と対策に関する研究	種市 尋宙	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
地域在住高齢者の足趾運動の効果と転倒との関連 ロコモティブシンドロームを改善する	金森 昌彦	医学部	650,000	補委	日本学術振興会
視線解析から小児の間欠性外斜視の発症時期とその原因を明らかにする	三原 美晴	附属病院	390,000	補委	日本学術振興会
霊長類の海馬による3次元環境内での居場所情報符号化様式の解明	田村 了以	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
Tm mapping法による肝硬変腹水中の細菌の同定・定量と自然免疫応答の解析	田尻 和人	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
共生細菌の糖利用競争力を利用した耐性菌制御法の構築	森永 芳智	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
食成分による腸内細菌叢を介した糖代謝制御 ~ノトバイオオートマウスを用いた研究~	藤坂 志帆	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
慢性痛下の睡眠障害に特異的な痛み関連シグナルとしてのmicroRNAの探索	竹村 佳記	医学部	650,000	補委	日本学術振興会
オピオイド受容体の慢性痛による睡眠障害への関わりを探究し臨床応用する	山崎 光章	医学部	1,950,000	補委	日本学術振興会
てんかん患者における全身麻酔不安定化メカニズムの解明と安全な麻酔法の確立	佐々木 利佳	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
好中球細胞外トラップを標的とした内頸動脈狭窄症不安定プラークに対する創薬	柏崎 大奈	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた軟部肉腫の早期転移診断・治療法の確立	鈴木 賀代	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
制御性T細胞、樹状細胞、NK細胞による母児免疫寛容誘導メカニズムの解明	島 友子	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
「羊水中菌数」を新たなバイオマーカーとして早産児の後遺症なき生存を目指す治療戦略	米田 徳子	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
ニューロフィードバック技術を応用した前庭リハビリテーション法の創成	高倉 大匡	附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
口腔癌の免疫逃避機構の解除による新たな治療戦略に関する研究	今上 修一	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
パーソナルヘルスコード導入によるメタボリック症候群の予防と進行抑制法の開発	朴木 久恵	附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
臨床応用に向けた多施設データによる統合失調症前駆期における皮質下構造の特徴の解明	笹林 大樹	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌、膵癌に対する新規Galectin-3阻害薬を用いた治療戦略	五十嵐 隆通	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自律神経障害を介した自己免疫性消化管運動障害の病態解明	向野 晃弘	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
マクロファージによる癌幹細胞数制御に着目した肥満誘発性発癌機構の解析	角 朝信	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害におけるグリア細胞を介した病態を解明し治療へと展開する	川上 正晃	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
5FU口内炎を増悪する細菌または予防する細菌の同定とそれぞれの機序の解明	元尾 伊織	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
唾液腺再生メカニズムの解明 ハイドロゲルを用いた神経細胞培養技術構築	池田 篤司	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
細胞骨格を介した細胞運動極性の制御による骨軟部肉腫の転移抑制	渡邊 健太	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
最適な患者選択と圧設定を行った非侵襲性用圧呼吸治療が心不全患者の予後に与える影響	今村 輝彦	附属病院	130,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞マーカーを用いた消化器癌末梢血循環癌幹細胞の同定と臨床的有用性の検討	渡辺 徹	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
慢性痛に対するレスベラトロールの治療・予防効果に関する研究	武部 真理子	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
骨修復能の「若返り」を目指した骨傷に対する新規治療戦略の創出	箭原 康人	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
法医解剖例における心アミロイド沈着の組織学的検討と突然死リスクファクターの解析	一萬田 正二郎	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
血小板由来増殖因子による脳の老化制御機構の解明	笹原 正清	医学部	6,500,000	補委	日本学術振興会
採血後4hでの起炎菌迅速同定・定量検査法を用いた「菌数」をバイオマーカーとする研究	仁井見 英樹	医学部	4,680,000	補委	日本学術振興会
新型ウイルス感染症を標的とした新たな免疫治療法確立のための基盤研究	村口 篤	医学部	6,890,000	補委	日本学術振興会
骨髄間質細胞由来細胞外小胞を用いた脳梗塞の包括的再生治療研究	黒田 敏	医学部	5,980,000	補委	日本学術振興会
幼少期のストレス経験が成体の行動を変容させる：外側手綱核と不安・うつ	一條 裕之	医学部	2,470,000	補委	日本学術振興会
新規DPP8阻害剤による血液悪性腫瘍の治療開発とバイオマーカーの同定	佐藤 勉	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
急性期脳梗塞治療のためのDual-energy CT画像診断プロトコルの開発	野口 京	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
アクティブターゲティングを利用した金ナノ粒子による放射線癌細胞死の増強	近藤 隆	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会
重症心不全患者における消化管出血発症のメカニズムとアンジオエチン2の関連	中村 牧子	附属病院	390,000	補委	日本学術振興会
孤立性右室低形成の全国実態調査と遺伝学的病態解明	小澤 綾佳	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
角化におけるDNA分解機序の解明と創薬への展開	牧野 輝彦	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
皮膚疾患の病態におけるD-DTの機能解析と新規治療法開発への展開	清水 忠道	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1型糖尿病に対する膵島特異的自家樹状細胞ワクチン開発のための基礎研究	中條 大輔	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた血中癌細胞識別による食道癌化学療法効果予測アルゴリズムの確立	奥村 知之	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
がん転移におよぼす麻酔薬の相違:腫瘍免疫に注目したin vivo転移モデルの解析	松尾 光浩	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
妊娠中期の頸管長短縮メカニズムの解明と超早産児低減への臨床応用	米田 哲	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
水素ガス吸入による網膜動脈閉塞症治療への展開	林 篤志	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来幹細胞を用いたサルコペニアの予防と治療に関する基礎研究	佐武 利彦	附属病院	2,730,000	補委	日本学術振興会
免疫学的アプローチによるびまん性浸潤口腔扁平上皮癌の制御に関する基礎的研究	野口 誠	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
心不全パンデミック抑制を目指した電子聴診器およびクラウドによる聴診指導法の開発	八木 邦公	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会
地域に特化した医療人材育成カリキュラム開発:地域医療者教育に必要な社会学の視点	高村 昭輝	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
多発性硬化症の認知症・疲労・うつに対する経頭蓋直流電気刺激療法(tDCS)の開発	中辻 裕司	附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
脳波・MRIによる脳内ネットワークのダイナミズムの評価と脳血管障害への臨床応用	服部 憲明	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
自律神経機能安定化による慢性心不全患者の体組成変化とQOLの向上	城宝 秀司	医学部	2,470,000	補委	日本学術振興会
血管リモデリングが誘導する脂肪幹細胞制御因子の同定による新規肥満病態改善法の創出	和田 努	薬学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤メカニズムの分子生物学的検討	山田 慎一	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
血小板由来増殖因子による脳および髄膜のリモデリング	濱島 丈	医学部	2,210,000	補委	日本学術振興会
Tmマッピング法による新生児敗血症の迅速診断と最適治療への展開	田村 賢太郎	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
睡眠障害が遷延性術後痛に与える影響の神経科学的解析	伊東 久勝	附属病院	1,820,000	補委	日本学術振興会
単一T細胞トランスクリプトーム解析による妊娠高血圧腎症治療のバイオマーカー探索	津田 さやか	附属病院	2,860,000	補委	日本学術振興会
microRNAに着目した川崎病冠動脈瘤での血管微小粒子役割解明と創薬標的探索	仲岡 英幸	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
肥満症に対する -ケトグルタル酸のエピゲノム創薬への応用	岡部 圭介	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
前頭前野機能と遷延性術後痛発症との関係の解明による新しい予防法の開発	日比 大亮	附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
椎体終板の多孔化抑制と骨量減少抑制に立脚した疼痛制御、その分子標的治療法の開発	牧野 紘士	附属病院	2,730,000	補委	日本学術振興会
口腔癌に対する癌浸潤ミエロイド系細胞を標的とした免疫学的治療戦略の開発	立浪 秀剛	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腸内細菌叢を介した小腸栄養トランスポーターの制御抑制	渡邊 善之	附属病院	1,170,000	補 委	日本学術振興会
脂肪組織常在性マクロファージが担う新たな生理機能の探求	西村 歩	附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会
ジェノタイプ層別化アプローチによる膀胱癌化学療法病勢評価の最適化	田中 晴祥	附属病院	1,560,000	補 委	日本学術振興会
心臓の働きの不思議:心臓を見て聞いて感じてみよう!	廣野 恵一	附属病院	450,000	補 委	日本学術振興会
感染菌迅速同定・定量検査創出を目指す研究	仁井見英樹	臨床分子病態検査学	4,550,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
骨腫瘍切除後の再建のためのカスタムメイドインプラントの研究開発	安田剛敏	整形外科・運動器病学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
自然免疫制御による全身性エリテマトーデス治療薬の創製	篠田晃一郎	内科学1	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
栄養素特異的腸内細菌制御機構と腸内細菌由来代謝産物を介した免疫・代謝ネットワークの解明	藤坂志帆	第一内科	13,511,953	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準治療対照無作為化割付多施設共同試験	貝沼茂三郎	和漢診療科	7,449,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
骨腫瘍切除後の再建のためのカスタムメイドインプラントの研究開発	安田剛敏	整形外科・運動器病学	46,396,373	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	齋藤滋	産科婦人科学	700,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

計 100

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Aoki M, Ikeno Y, Ibusaki K, 他	第一外科	The mid-term outcome of interventricular septal hematoma after ventricular septal defect closure.	10.1177/02184923211066653.	Original Article
2	Fujii T, Shimizu T, Katoh M, 他	第二外科	Survival of detached cancer cells is regulated by movement of intracellular Na ⁺ , K ⁺ -ATPase.	10.1016/j.jisci.2021.102412.	Original Article
3	Fujiwara K, Saitou S, Nagaoka R, 他	歯科口腔外科	A preliminary study on the quantification of soft palate movement using ultrasonography.	10.1111/cga.12446	Original Article
4	Gejo R, Mine H, Nogami M, 他	整形外科	Is it possible to predict the final component gap inflexion before femoral posterior condylar osteotomy in cruciate-retaining and posterior-stabilized total knee arthroplasty?.	10.1016/j.knee.2020.11.006	Original Article
5	Hayashi K, Tokui K, Inomata M, 他	臨床腫瘍部	Case Series of Pleomorphic Carcinoma of the Lung Treated With Immune Checkpoint Inhibitors	10.21873/invivo.12428	Original Article
6	Hayashi T, Nukui T, Jin Lan Pia, 他	脳神経内科	Serum neurofilament light chain in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy.	10.1002/brb3.2084	Original Article
7	Higuchi Y, Sumiyoshi T, Tateno T, 他	神経精神科	Prolonged P300 Latency in Antipsychotic-Free Subjects with At-Risk Mental States Who Later Developed Schizophrenia	10.3390/jpm11050327	Original Article
8	Hirano T, Yunoki T, Furusawa Y, 他	眼科	Bioinformatics analysis of the microRNA-mRNA network in sebaceous gland carcinoma of the eyelid.	10.3892/mmr.2020.11682	Original Article
9	Hirono K, Hata Y, Ozawa SW, 他	小児科	A burden of sarcomere gene variants in fetal-onset patients with left ventricular noncompaction.	10.1016/j.ijcard.2020.12.013	Original Article
10	Homma T, Shimada Y, Tanabe K, 他	第一外科	Adverse factors and postoperative neuropathic pain in challenging video-assisted thoracoscopic surgery.	10.21037/apm-20-1729	Original Article
11	Hori M, Imamura T, Kataoka N, 他	第二内科	Urinary isoxanthopterin in heart failure patients.	10.1253/circrep.CR-21-0112.	Original Article
12	Hori M, Imamura T, Narang N, 他	第二内科	Implications of Doppler echocardiography-guided heart rate modulation using ivabradine.	10.2169/internalmedicine.7343-21.	Original Article
13	Hori M, Imamura T, Narang N, 他	第二内科	Triglyceride and small dense LDL-cholesterol in patients with acute coronary syndrome.	10.3390/jcm10194607.	Original Article
14	Imamura T, Hori M, Narang N, 他	第二内科	Association between adaptive servo-ventilation therapy and renal function.	10.1536/ihj.21-202.	Original Article
15	Imamura T, Narang N, Besser S, 他	第二内科	Chronotropic assessment in patients with constrictive pericarditis	10.1536/ihj.20-751.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Imamura T, Narang N, Combs P, 他	第二内科	Hyperkalemia in patients with left ventricular assist devices.	10.1253/circrep.CR-21-0078.	Original Article
17	Imamura T, Narang N, Onoda H, 他	第二内科	Implications of elevated fibrosis-4 index in patients receiving transcatheter aortic valve replacement.	10.3390/jcm10245778.	Original Article
18	Imamura T, Narang N, Onoda H, 他	第二内科	Prognostic implications of modified seattle heart failure model score following transcatheter aortic valve replacement.	10.3390/jcm10245807.	Original Article
19	Imamura T, Narang N, Sobajima M, 他	第二内科	Inadequate cardiac unloading following transcatheter aortic valve replacement.	10.1253/circrep.CR-21-0079.	Original Article
20	Imamura T, Narang N, Sobajima M, 他	第二内科	Decoupling between pulmonary artery diastolic and wedge pressure following transcatheter aortic valve replacement.	10.1253/circj.CJ-21-0573.	Original Article
21	Imamura T, Onoda H, Uchida K, 他	第二内科	Implication of ivabradine therapy in up-titrating beta-blocker dose in patients with systolic dysfunction.	10.1536/ihj.21-387.	Original Article
22	Imamura T, Oshima A, Narang N, 他	第二内科	Implication of mineralocorticoid receptor antagonist esaxerenone in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	10.1253/circrep.CR-21-0115.	Original Article
23	Imamura T, Oshima A, Narang N, 他	第二内科	Clinical implications of sodium zirconium cyclosilicate therapy in patients with systolic heart failure and hyperkalemia.	10.3390/jcm10235523.	Original Article
24	Imamura T, Tanaka S, Ushijima R, 他	第二内科	The implication of optimal heart rate in patients with systolic dysfunction following TAVR.	10.1111/jocs.15394.	Original Article
25	Imamura T, Ueno H, Sobajima M 他	第二内科	Risk assessment in patients with left ventricular systolic dysfunction following transcatheter aortic valve replacement.	10.1111/jocs.15822.	Original Article
26	Imamura T, Ueno H, Sobajima M, 他	第二内科	Creatinine score can predict persistent renal dysfunction following transcatheter aortic valve replacement.	10.1536/ihj.20-713.	Original Article
27	Iyama S, Tatsumi H, Shiraishi T, 他	血液内科	Possible clinical outcomes using early enteral nutrition in individuals with allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: A single-center retrospective study.	10.1016/j.nut.2020.111093	Original Article
28	Izumida T, Imamura T, Fukui T, 他	第二内科	How to Estimate the Optimal Heart Rate in Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction.	10.1536/ihj.20-788	Original Article
29	Izumida T, Imamura T, Nakamura K, 他	第二内科	Optimal Heart Rate and Prognosis in Patients with Cardiac Amyloidosis.	10.3390/jcdd8120182	Original Article
30	Izumida T, Imamura T, Ueno Y, 他	第二内科	Impact of optimal heart rate on left ventricular reverse remodeling and functional improvement in patients with systolic heart failure.	10.1007/s00380-021-01864-5	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Takeue K, Kanazawa M, Yunoki T, 他	眼科	Evaluation of saccadic velocity in patients with orbital floor fracture before and after surgery.	10.1080/08820538.2021.1985528	Original Article
32	Takeue K, Mihara M, Hayashi A.	眼科	Utility of a cheiroscope to test for simultaneous perception and sensory fusion.	10.1080/08164622.2021.2011150	Original Article
33	Kataoka N, Imamura T, Koi T, 他	第二内科	The large right heart is associated with the prolongation of the procedure time of leadless pacemaker implantation.	10.3390/medicina57070685.	Original Article
34	Kataoka N, Imamura T, Koi T, 他	第二内科	A simple predictive marker in cardiac resynchronization therapy recipients: prominent S-wave in right precordial leads.	10.3390/medicina57080815.	Original Article
35	Kawaguchi Y, Imagama S, Iwasaki M, 他	整形外科	Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of ossification of the spinal ligament, 2019.	10.1016/j.jos.2020.07.027.	Original Article
36	Kimura S, Takaoka Y, Toyoura M, 他	医療情報・経営戦略部	Core body temperature changes in school-age children with circadian rhythm sleep-wake disorder.	10.1016/j.sleep.2021.08.026	Original Article
37	Kuroda K, Miura T, Kuroiwa S, 他	総合診療科	What are the factors that cause emergency home visit in home medical care in Japan?.	10.1002/jgf2.389	Original Article
38	Nakajima S, Higuchi Y, Tateno T, 他	神経精神科	Duration mismatch negativity predicts remission in first-episode schizophrenia patients.	10.3389/fpsyt.2021.777378	Original Article
39	Nakamura M, Imamura T, Joho S, 他	第二内科	Initial Real-World Practical Experience of Sacubitril/Valsartan Treatment in Japanese Patients With Chronic Heart Failure.	10.1253/circrep.CR-21-0068	Original Article
40	Nakamura M, Imamura T, Ueno H, 他	第二内科	Impact of the whole activated clotting time during Impella support on short-term prognosis.	10.1007/s10047-021-01271-7	Original Article
41	Nishida T, Tsuneyama K, Tago Y, 他	和漢診療科	Effect of Continuous Feeding of Ayu-Narezushi on Lipid Metabolism in a Mouse Model of Metabolic Syndrome.	10.1155/2021/1583154	Original Article
42	Nukui T, Matsui A, Niimi H, 他	脳神経内科	Increased cerebrospinal fluid adenosine 5' triphosphate in patients with amyotrophic lateral sclerosis.	10.1186/s12883-021-02288-4	Original Article
43	Onoda H, Ueno H, Imamura T, 他	第二内科	Identification of anemia for predicting mid-term prognosis after transcatheter aortic valve implantation in Japanese patients –insights from the OCEAN-TAVI registry.	10.1253/circrep.CR-21-0026.	Original Article
44	Oshima A, Imamura T, Narang N, 他	第二内科	Management of hyperkalemia in chronic heart failure using sodium zirconium cyclosilicate.	10.1002/clc.23683.	Original Article
45	Oshima A, Imamura T, Narang N, 他	第二内科	Renoprotective effect of the mineralocorticoid receptor antagonist esaxerenone.	10.1253/circrep.CR-21-0024.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
46	Ozawa SW, Takarada S, Okabe M, 他	小児科	Clinical Characteristics and Prognosis of Fetal Left Ventricular Noncompaction in Japan.	10.1253/circj.CJ-20-1148.	Original Article
47	Ozawa T, Kobayashi E, Hamana H, 他	眼科	Rapid and efficient generation of T-cell receptor-like antibodies using chip-based single-cell analysis.	10.1002/eji.202049083	Original Article
48	Sakumura M, Ando T, Ueda-Consolvo T, 他	眼科	Bilateral Serous Retinal Detachment Associated with a Mitogen-activated Protein Kinase Inhibitor in a Patient with BRAF- mutant Colorectal Cancer.	10.2169/internalmedicine.8439-21	Original Article
49	Sasabayashi D, Takayanagi Y, Takahashi T, 他	神経精神科	Reduced cortical thickness of the paracentral lobule in at-risk mental state individuals with poor 1-year functional outcomes.	10.1038/s41398-021-01516-2.	Original Article
50	Sasabayashi D, Yoshimura R, Takahashi T, 他	神経精神科	Reduced hippocampal subfield volume in schizophrenia and clinical high-risk state for psychosis.	10.3389/fpsy.2021.642048	Original Article
51	Shojaku H, Aoki M, Takakura H, 他	耳鼻咽喉科	Effects of transtympanic intermittent pressure therapy using a new tympanic membrane massage device for intractable Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops: A prospective study.	10.1080/00016489.2021.1942979	Original Article
52	Shojaku H, Takakura H, Asai M, 他	耳鼻咽喉科	Long-term effect of transtympanic intermittent pressure therapy using a tympanic membrane massage device for intractable Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops.	10.1080/00016489.2021.1989485	Original Article
53	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, 他	神経精神科	Potential contribution of pineal atrophy and pineal cysts toward vulnerability and clinical characteristics of psychosis.	10.1016/j.nicl.2021.102805	Original Article
54	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, 他	神経精神科	Altered Heschl's gyrus duplication pattern in first-episode schizophrenia.	10.1016/j.schres.2021.09.011	Original Article
55	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, 他	神経精神科	Heschl's gyrus duplication pattern in individuals at risk of developing psychosis and patients with schizophrenia.	10.3389/fnbeh.2021.647069	Original Article
56	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, 他	神経精神科	Increased Heschl's gyrus duplication in schizophrenia spectrum disorders: A cross-sectional MRI study.	10.3390/jpm11010040	Original Article
57	Tanaka S, Imamura T, Ushijima R, 他	第二内科	Improvement in vascular endothelial function following transcatheter aortic valve implantation.	10.3390/medicina57101008.	Original Article
58	Tateno T, Higuchi Y, Nakajima S, 他	神経精神科	Features of duration mismatch negativity around the onset of overt psychotic disorders: A longitudinal study.	10.1093/cercor/bhaa364	Original Article
59	Ueda-Consolvo T, Oiwake T, Abe S, 他	眼科	Hydroxychloroquine's Early Impact on Cone Density.	10.1155/2021/1389805	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
60	Ueda-Consolvo T, Shibuya N, Oiwake T, 他	眼科	Using optical coherence tomography angiography to guide myopic choroidal neovascularization treatment: a 3-year follow-up study.	10.1007/s00417-021-05270-5	Original Article
61	Yachida S, Totoki Y, Noe M, 他	第二外科	Comprehensive Genomic Profiling of Neuroendocrine Carcinomas of the Gastrointestinal System.	10.1158/2159-8290.CD-21-0669.	Original Article
62	Yamashita T, Takamatsu H, Kawamura K, 他	血液内科	A nationwide survey on central nervous system multiple myeloma in Japan: analysis of prognostic and treatment factors that impact survival.	10.1111/bjh.17717	Original Article
63	Yokoyama S, Imamura T, Yamashita S, 他	第一外科	Peak Lag Between Plasma Vasopressin and Urine Aquaporin-2 Following Cardiac Surgery.	10.1536/ihj.21-301.	Original Article
64	Yokoyama S, Imamura T, Yamashita S, 他	第二内科	Peak lag between plasma vasopressin and urine aquaporin-2 following cardiac surgery.	10.1536/ihj.21-301.	Original Article
65	Yunoki T, Hayashi A, Abe S, 他	眼科	Corneal Topographic Analysis in Patients with Involutional Lower Eyelid Entropion.	10.1080/08820538.2021.1890787	Original Article
66	Zukawa M, Okabe M, Osada R, 他	整形外科	Effect of hyperdry amniotic membrane in preventing tendon adhesion in a rabbit model.	10.1016/j.jos.2021.03.005	Original Article
67	Zukawa M, Osada R, Inagaki M, 他	整形外科	Wide-awake surgery for congenital thumb flexion anomaly in a child.	10.1097/GOX.0000000000003504	Original Article
68	Fujiwara K, Yoshida M, Nakamichi N, 他	歯科口腔外科	Mini-microform cleft lip with complete cleft alveolus and palate	10.1111/cga.12415	Case report
69	Furukawa F, Makino T, Mori S, 他	皮膚科	Successful treatment of acne fulminans with the combination of prednisolone and diaminodiphenylsulfone.	10.1111/1346-8138.15699.	Case report
70	Furukawa F, Makino T, Torai R, 他	皮膚科	Effectiveness of combined bexarotene and excimer laser treatment for folliculotropic mycosis fungoides.	10.1684/ejd.2021.4085	Case report
71	Hirosawa H, Nukui T, Noguchi K, 他	脳神経内科	Adult-Onset Leigh Syndrome due to an m.13513G>A Mutation.	10.2169/internalmedicine.8445-21.	Case report
72	Honoki H, Yagi K, Tsuda S, 他	第一内科	Type 1 diabetes woman with repeated miscarriages successfully gave birth after introducing an insulin pump with a predictive low glucose suspend feature.	10.1007/s13340-020-00489-9	Case report
73	Hori M, Imamura T, Kinugawa K.	第二内科	Implication of heart rate optimization in patients with heart failure.	10.1016/j.jccase.2020.11.016	Case report
74	Hori M, Imamura T, Nakamura M, 他	第二内科	Implication of Ivabradine in Up-titrating Beta-blocker in Patient with Advanced Heart Failure.	10.2169/internalmedicine.6061-20.	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
75	Hori M, Imamura T, Nakamura M, 他	第二内科	Therapeutic Strategy for a Patient with Advanced Heart Failure and Schizophrenia Without Cardiac Replacement Therapies.	10.1536/ihj.20-624	Case report
76	Hori M, Imamura T, Tanaka S, 他	第二内科	Primary cardiac angiosarcoma accompanying cardiac tamponade.	10.2169/internalmedicine.8250-21.	Case report
77	Hori M, Imamura T, Tanaka S, 他	臨床腫瘍部	Primary Cardiac Angiosarcoma Accompanying Cardiac Tamponade.	10.2169/internalmedicine.8250-21.	Case report
78	Imamura T, Hori M, Tanaka S, 他	第二内科	Impact of hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitor on heart failure with preserved ejection fraction.	10.3390/medicina57121319.	Case report
79	Imamura T, Kinugawa K.	第二内科	Drastic improvement of myocardial infiltration of malignant lymphoma.	10.2169/internalmedicine.8023-21.	Case report
80	Imamura T, Koi T, Kataoka N, 他	第二内科	Micra trans-catheter leadless pacemaker implantation in a patient with large right heart.	10.1016/j.jccase.2021.02.015	Case report
81	Imamura T, Oshima A, Narang N, 他	第二内科	Combinatin therapy using sodium zirconium cyclosilicate and a mineralocorticoid receptor antagonist in patients with heart failure and hyperkalemia.	10.2169/internalmedicine.6704-20.	Case report
82	Imamura T, Ueno Y, Kinugawa K.	第二内科	Impact of hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitor on renal function in patient with heart failure.	10.3390/jcdd8120189.	Case report
83	Ishikuro K, Hattori N, Imanishi R, 他	放射線部	A Parkinson's disease patient displaying increased neuromelanin-sensitive areas in the substantia nigra after rehabilitation with tDCS: a case report.	10.1080/13554794.2021.1975768	Case report
84	Izumida T, Imamura T, Ueno Y, 他	第二内科	Acute heart failure in a patient with occult Barlow's disease receiving bevacizumab.	10.3390/medicina57100998.	Case report
85	Kakeshita K, Yamazaki H, Imamura T, 他	透析部	Cryofibrinogen-associated glomerulonephritis accompanied by advanced gastric cancer.	10.1007/s13730-021-00602-0.	Case report
86	Kamihara Y, Murai S, Kikuchi S, 他	血液内科	Tumor-to-tumor metastasis of diffuse large B cell lymphoma to gastric adenocarcinoma via CXCL12 (SDF-1)/CXCR4 axis: a case report.	10.1186/s12876-021-01844-z.	Case report
87	Kamihara Y, Murai S, Kikuchi S, 他	検査・輸血細胞治療部	Tumor-to-tumor metastasis of diffuse large B cell lymphoma to gastric adenocarcinoma via CXCL12 (SDF-1)/CXCR4 axis: a case report.	10.1186/s12876-021-01844-z	Case report
88	Kataoka N, Imamura T, Koi T, Ueno H, 他	第二内科	Cryoballoon ablation-induced J-ST elevation.	10.1093/ehjcr/ytab275.	Case report
89	Kato R, Taneichi H, Takarada S, 他	小児科	Reversible left ventricular noncompaction caused by hypertensive hydrocephalus: a pediatric case report.	10.1186/s12887-021-02680-6.	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
90	Kawasuji H, Morinaga Y, Tani H, 他	検査・輸血細胞治療部	Age-Dependent Reduction in Neutralization against Alpha and Beta Variants of BNT162b2 SARS-CoV-2 Vaccine-Induced Immunity.	10.1128/spectrum.00561-21	Case report
91	Koi T, Kataoka N, Imamura T, 他	第二内科	Drastic cardiac reverse remodeling following catheter ablation in patient with atrial fibrillation and heart failure.	10.3390/medicina57050511.	Case report
92	Matsui Y, Makino T, Asano R, 他	皮膚科	Immunohistochemical examination of cutaneous vasculitis in a case of Cogan's Syndrome.	10.4103/ijd.ijd_882_20	Case report
93	Minemura T, Kikuchi S, Mihara H, 他	血液内科	Protein-losing Enteropathy Complicated with Primary Intestinal Follicular Lymphoma.	10.2169/internalmedicine.8261-21	Case report
94	Minemura T, Kikuchi S, Mihara H, 他	検査・輸血細胞治療部	Protein-losing Enteropathy Complicated with Primary Intestinal Follicular Lymphoma.	10.2169/internalmedicine.8261-21	Case report
95	Mizawa M, Makino T, Furukawa F, 他	皮膚科	Japanese case of classic plaque-like actinic lichen planus.	10.1111/1346-8138.16018	Case report
96	Murayama A, Tajiri K, Kanegane C, 他	血液内科	Successful Treatment with Crushed Sofosbuvir/Velpatasvir of a Patient with Decompensated Cirrhosis C and Thrombocytopenia.	10.1159/000518306	Case report
97	Nabe Y, Kikuchi S, Kamihara Y, 他	血液内科	Early complete response of primary bone marrow B-cell lymphoma treated with rituximab-based CHOP therapy, assessed by flow cytometry and immunoglobulin heavy chain rearrangement.	10.1002/ccr3.4657	Case report
98	Nakamura M, Imamura T, Hori M, 他	第二内科	Usefulness of HVAD Waveform as Diagnostic Assistance for Cardiac Tamponade.	10.1097/MAT.0000000000001303	Case report
99	Nakamura M, Imamura T, Hori M, 他	第二内科	Prognostic implication of risk scoring systems in patients with cardiogenic shock supported by ECMO and Impella	10.1007/s10047-020-01232-6	Case report
100	Nakamura M, Imamura T, Kinugawa K.	第二内科	Patisiran for advanced heart failure with hereditary transthyretin cardiac amyloidosis.	10.1016/j.jccase.2021.01.007	Case report
101	Nukui T, Matsuda N, Konishi K, 他	脳神経内科	Anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease presenting tumefactive demyelinating lesions and bilateral optic neuritis with chiasmatic lesion.	10.1111/ncn3.12547	Case report
102	Nukui T, Matsui A, Niimi H, 他	検査・輸血細胞治療部	Increased Cerebrospinal Fluid Adenosine 5'-triphosphate in Patients with Amyotrophic Lateral Sclerosis	10.1186/s12883-021-02288-4	Case report
103	Ogawa D, Arahata M, Kuriyama M, 他	南砺・地域医療支援学講座	Pulmonary Pleomorphic Carcinoma Mimicking Primary Sarcoma of the Neck:A Case Report and Literature Review.	10.2147/CIA.S296875	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
104	Okumura T, Miwa T, Watanabe T, 他	第二外科	Paratracheal air cyst and bronchogenic cyst in patients with esophageal cancer who received thoracoscopic esophagectomy: A case series of three patients.	10.1016/j.ijscr.2021.106243	Case report
105	Sakai A, Okumura T, Miwa T, 他	第二外科	Distal partial gastrectomy for gastric tube cancer with intraoperative blood flow evaluation using indocyanine green fluorescence.	10.1093/jscr/rjab574	Case report
106	Shojaku H, Hori R, Yoshida T, 他	放射線診断科	Low-grade ductal carcinoma in situ (DCIS) arising in a fibroadenoma of the breast during 5 years follow-up: A case report.	10.1097/MD.00000000000024023	Case report
107	Takakura H, Shojaku H, Tsubota M, 他	耳鼻咽喉科	Complete recovery of delay of p13 latency in the cervical vestibular evoked myogenic potentials of a patient with earpick-induced inner ear injury.	10.1097/MD9.00000000000000064	Case report
108	Takakura H, Tachino H, Takii K, 他	耳鼻咽喉科	Localized Amyloidosis of the Nasal Mucosa: A Case Report and Review of the Literature.	10.3389/fsurg.2021.774469	Case report
109	Tanaka R, Nukui T, Ratna Dini Haryuni, 他	脳神経内科	Radial linear perivascular emphasis in coronavirus disease 2019-associated acute disseminated encephalomyelitis	10.1111/cen3.12668	Case report
110	Tsuda R, Shinoda K, Ushijima R, 他	第二内科	A case of wild-type transthyletin cardiac amyloidosis with rheumatoid arthritis.	10.1080/24725625.2020.1864104	Case report
111	Wakasugi M, Kawagishi T, Hatano T, 他	災害・救命センター	Treatment of a Severe Puff Adder Snakebite Without Antivenom Administration.	10.4269/ajtmh.21-0291	Case report
112	Watanabe M, Nakamura Y, Shinya Sato S, 他	脳神経内科	HLA genotype-clinical phenotype correlations in multiple sclerosis and neuromyelitis optica spectrum disorders based on Japan MS/NMOSD Biobank data.	10.1038/s41598-020-79833-7.	Case report
113	Yamazaki H, Koike T, Imamura T, 他	透析部	Renal Cell Carcinoma on the Native Kidney Following Kidney Transplantation.	10.1016/j.transproceed.2021.02.003.	Case report
114	Yoneda N, Yoneda S, Tsuda S, 他	検査・輸血細胞治療部	Pre-eclampsia Complicated With Maternal Renal Dysfunction Is Associated With Poor Neurological Development at 3 Years Old in Children Born Before 34 Weeks of Gestation.	10.3389/fped.2021.624323	Case report
115	Hamada T, Iwashita T, Saito T, 他	第三内科	Disconnected pancreatic duct syndrome and outcomes of endoscopic ultrasound-guided treatment of pancreatic fluid collections: Systematic review and meta-analysis.	10.1111/den.14142.	Review
116	Imamura T, Kinugawa K.	第二内科	Optimal heart rate modulation using ivabradine.	10.1536/ihj.21-355.	Review

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
117	Kanamori M, Sato T, Shima T, 他	第一内科	Hyperthermia-induced Cell Death From Apoptosis to New Stage on Cell Death.	10.3191/thermalmed.37.1	Review
118	Sasabayashi D, Takahashi T, Takayanagi Y, 他	神経精神科	Anomalous brain gyrification patterns in major psychiatric disorders: A systematic review and transdiagnostic integration.	10.1038/s41398-021-01297-8	Review
119	Yasuda I, Takahashi K.	第三内科	Endoscopic management of walled-off pancreatic necrosis.	10.1111/den.13699	Review
120	Yasuda I.	第三内科	Pancreato-hepatobiliary endoscopy: Endoscopic management of bile duct stones.	10.1111/den.14113.	Review
121	Yasuda I.	光学医療診療部	Pancreato-hepatobiliary endoscopy: Endoscopic management of bile duct stones.	10.1111/den.14113.	Review
122	Yutaka Shimada.	和漢診療科	Adverse effects of Kampo medicines.	10.2169/internalmedicine.6292-20	Review

計122件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	有・無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 富山大学医の倫理に関する規則 1 目的及び設置 2 所掌事項 3 組織 4 委員長 5 議事等 6 課題審査 7 申請手続及び判定の通知 8 異議申立手続及び判定の通知 9 研究等実施計画の変更 10 専門委員会 等	
倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に 印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 富山大学利益相反マネジメント規則 - 臨床研究部会 1 臨床研究部会 2 所掌事項 3 組織 4 部会長 5 議事 6 意見聴取等	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年0回(本審査) 1,086件(迅速審査)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年19回
・ 研修の主な内容 2021年度第1回～第6回 富山大学研究倫理講習会 2021年度 臨床研究ビデオセミナー	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

富山大学附属病院では、以下の全 19 領域の専門研修プログラムを実施しています。

内科専門研修プログラム
小児科専門研修プログラム
皮膚科専門研修プログラム
精神科専門研修プログラム
外科専門研修プログラム
整形外科専門研修プログラム
産婦人科専門研修プログラム
眼科専門研修プログラム
耳鼻咽喉科専門研修プログラム
泌尿器科専門研修プログラム
脳神経外科専門研修プログラム
放射線科専門研修プログラム
麻酔科専門研修プログラム
臨床検査専門研修プログラム
病理専門研修プログラム
救急科専門研修プログラム
総合診療科専門研修プログラム
リハビリテーション科専門研修プログラム
形成外科専門研修プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	145	人
-------------	-----	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	
絹川 弘一郎	内科	第二内科診療部門長	31年	
足立 雄一	小児科	小児科診療部門長	39年	
清水 忠道	皮膚科	皮膚科長	35年	
鈴木 道雄	精神科	精神科長	34年	
芳村 直樹	外科	第一外科診療部門長	34年	

川口 善治	整形外科	整形外科長	33年	
中島 彰俊	産科婦人科	産科婦人科長	22年	
林 篤志	眼科	眼科長	33年	
將積 日出夫	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科長	39年	
北村 寛	腎泌尿器科	泌尿器科長	27年	
黒田 敏	脳神経外科	脳神経外科診療部門長	35年	
野口 京	放射線科	放射線科診療部門長	30年	
廣田 弘毅	麻酔科	麻酔科長	37年	
仁井見 英樹	臨床検査科	輸血・細胞治療部長	23年	
平林 健一	病理診断科	病理診断科長	20年	
若杉 雅浩	救急科	災害・救命センター長	28年	
北 啓一郎	総合診療科	総合診療部長（代行）	31年	
服部 憲明	リハビリテーション科	リハビリテーション科長	28年	
佐武 利彦	形成外科	形成外科長	32年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 新人病院職員を対象に「保険診療とDPC」と題し研修を実施。保険医療機関及びDPC病院並びに大学病院の職員としての使命感等を認識し、業務への理解を深めることを目的として実施。・研修の期間・実施回数 令和3年4月1日・研修の参加人数 117名
他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	林 篤志
管理担当者氏名	副病院長(診療担当) 絹川弘一郎、薬剤部長 加藤敦、医事課長 神田寛之 放射線科長 野口京、看護部長 丸池小百合、病院総務課長 西川幹郎

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課
		各科診療日誌	看護部
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	看護部
		検査所見記録	医療情報・経営戦略部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医薬系総務課人事・職員支援チーム
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課
		高度の医療の研修の実績	病院総務課臨床研修チーム
		閲覧実績	病院総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課医療安全

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課医療安全
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事課医療安全
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医事課医療安全
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課医療安全
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課医療安全
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全
		監査委員会の設置状況	医事課医療安全
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課医療安全
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院総務課
		職員研修の実施状況	医事課医療安全
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課医療安全
		管理者が有する権限に関する状況	病院総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・広報課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・広報課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院事務部病院総務課長 西川 幹郎
閲覧担当者氏名	病院事務部病院総務課長補佐 酒井 文寿
閲覧の求めに応じる場所	・病院事務部病院総務課
閲覧の手続の概要 原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときには、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>医療に係る安全管理のための指針の整備状況</p>	<p>①・無</p>
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全の組織と体制に関する基本事項 3. 安全管理に係る研修に関する基本方針 4. 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のための必要な基本方針 	
<p>医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p>	
<p>・ 設置の有無（①・無）</p> <p>・ 開催状況：年16回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 1号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 2号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 4.5号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 	

7. その他医療安全管理及び医療事故に関すること。	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. 新人病院職員研修 2. 春季医療安全管理等研修会 3. 医薬品・医療機器・医療安全に関する講習会 4. 医療安全講習会「医療におけるコミュニケーションとクレームへの対応」 5. 医療安全講習会「院内救急対応システム」 6. 医療安全講習会「医療安全活動報告会」 	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ コアメンバーミーティング(1回/週)では、週報をもとに事例の確認および対策の検討等を行う。 ・ 医療安全管理部ミーティング(2回/月)では、重要事例や警鐘事例について、対策およびその周知方法等について検討する。 ・ 重大事例や警鐘事例については、特別事例検討会・医療事故調査委員会等を通して、対策およびその周知方法等について検討する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における感染対策に関する基本的な考えかた 2. 感染対策の組織と体制に関する基本的事項 3. 感染対策に係る研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針 	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。 	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人病院職員研修 2. 春季医療安全管理等研修会 3. 院内感染対策講習会「感染制御と抗菌薬適正使用の重要性」 4. 院内感染対策講習会「感染制御と抗菌薬適正使用の考え方」 	

感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

○COVID-19感染対策を職員・患者が実施し、院内感染拡大を防止した。

- ・ COVID-19患者の入院患者数 : 302名
- ・ COVID-19職員数 : 37名
- ・ 第二種感染症病床マニュアルを作成し、部署看護師の教育プログラムを計画し実施した。
- ・ 外来トリアージ棟の新設・運用計画を立て実施した。

○薬剤耐性菌のアウトブレイクを発生させない

- ・ MRSAのアウトブレイク3件(ユニットで発生)、CDIのアウトブレイク1件(消化器外科病棟)
- ・ MRSAのアウトブレイクについては、POT法で感染経路を推測し 感染対策を強化・指導した。

○耐性菌のコントロールを目標に、病棟の患者1人当たり/日の手指衛生目標回数を設定し強化し、患者1人当たり手指消毒回数が増加した。 10.1回(R2) 11.6回(R3)

黄色ブドウ球菌のMRSA率が微増した。25.2%(R2) 26.5%(R3)

○抗菌薬適正使用の支援を実施し、カルバペネム抗菌薬使用量(AUD)の変化はなかった。

10.76(R2) 10.8(R3)

しかし、タゾピペ使用量(AUD)は増加した。27.18(R2) 29.8(R3)

○血液体液粘膜曝露事故全体の事例件数が減少した。縫合針・粘膜曝露件数も減少した。

全体 48件(R2) 39件(R3)

縫合針 6件(R2) 3件(R3)

粘膜曝露 7件(R2) 4件(R3)

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項</p> <p>医薬品による副作用等が発生した場合の対応（病院内での報告，行政機関への報告等）に関する事項</p> <p>○麻薬事故発生時の対応（保存方法及び報告等のルール）に関する事項</p>	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p>	
<p>・ 手順書の作成（①・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を，医療安全管理委員会の議を経て作成。</p> <p>実施状況を部署責任者の協力を得て定期的に「医薬品業務確認リスト」に基づき確認。</p> <p>確認結果を，医療安全管理委員会の議を経て，病院長に報告。</p>	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（①・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>使用事例なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬剤部医薬品情報室の機能を駆使して，医薬品の添付文書の情報のほか，医薬品製造販売業者，行政機関及び学術誌等からの情報を広く収集・管理する。</p> <p>得られた情報のうち必要なものを当該情報に係る医薬品を取り扱う病院従業者に，迅速かつ確実に周知徹底を行った後、全職員に対し情報の周知を行い、確認報告書を記載・提出させる。</p> <p>○病院内に新たに臨床倫理委員会を設置し、薬剤部及び臨床研究管理センターと連携し未承認薬（未承認新規薬剤を除く）、適応外・禁忌使用薬剤及び院内製剤についての申請及び審査機能を強化し情報の共有を行う。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	①有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>有効性・安全性に関すること</p> <p>使用方法に関すること</p> <p>保守点検に関すること</p> <p>不具合発生への対応に関すること</p> <p>○使用に関して特に法令上遵守すべきことに関すること</p>	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (①有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>日常点検</p> <p>使用後点検</p> <p>定期点検</p>	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>○使用事例は無し</p> <p>・ その他の情報の収集：</p> <p>○院内全部署より「医療機器修理・点検依頼書」により使用状況、不具合等の情報を収集し、記録している。</p> <p>○PMDA, 医療機器納入業者・メーカーより安全使用、不具合等に関する情報を収集している。</p> <p>○病院電子掲示板に電子化した添付文書等を掲載するほか、諸会議（医療安全管理委員会、セーフティマネージャー会議等）で周知している。更に、必要に応じてCE Letterや電子カルテ掲示板でも通知している。</p> <p>○病院内で使用する医療機器の購入やリース開始時に、経理調達課と協力し、納入業者より事前に機器情報等の収集を行い、機器登録を行ったうえで使用場所へ納品する。この流れの中で医療機器管理センターから導入時研修の必要性の有無確認や開催に繋げる。</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

新規導入の機器や更新機器は、年1回、各診療科等に導入希望調査が行われ、年度導入計画書が作成される。その他臨時導入機器も含め高額機器については病院執行部会議で審議、病院運営会議で最終決定され、院内に周知されている。

○管理、修理・点検は、検査部、放射線部を除き、全ての修理依頼を医療機器管理センターで対応（検査部及び放射線部については、各部での保守点検の計画と実施について医療機器管理センターが確認している。）しており、医療機器は、同センターが窓口となっている。

○使用状況については、院内ラウンド時や稼働率、インシデント報告などで把握するよう努めている。院内に周知されている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年7月20日に医療安全管理指針を改正し、医療安全管理責任者を配置した。医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括することを定めた。</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（3名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>(1) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び見直し (2) 医薬品の業務手順に基づく業務の実施・確認 (3) 病院従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 (4) 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施 (5) 医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属： 薬剤部，職種 薬剤師) (所属： ，職種) (所属： 薬剤部，職種 薬剤師) (所属： ，職種) (所属： ，職種) (所属： ，職種) (所属： ，職種) (所属： ，職種)</p>	

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	①有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (①有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 「富山大学附属病院インフォームド・コンセントに関する要項」に基づき実施している。 説明者氏名、患者氏名及び同席者氏名の診療録への記載、質問の回答や患者及び同席者の反応などを、診療録等に記載することについて指導を行っている。 	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	①有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 患者基本情報として、主訴・現病歴の記載。 毎日、医師記録、看護記録が記載されている。 入院から退院までの診療内容の要点の適切な記載。 手術記録の適切な記載。 その他のスキャンされた医療文書についての適切な作成。 	

医療安全管理部門の設置状況	①有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ ）名、兼任（ 25 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 10 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 4 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 富山大学附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）に係る事務。 2. 事故その他の管理室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導。 3. 医療に係る安全管理に係る連絡調整。 4. 医療に係る安全確保のための対策の推進。 5. 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング。（画像・病理診断レポート、手術室オカレンス、塞栓症、血栓症等） 6. 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の立案、実施及び認識状況の確認。 7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録。 8. 委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、その他の医療安全管理者の活動実績の記録。 9. 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施。 10. その他医療の安全管理に関すること。 	

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること。
高難度新規医療技術が適正に提供されているかどうかを確認すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
未承認新規医薬品等の使用の適否等に関すること。
未承認新規医薬品等が適正に使用されているかどうかを確認すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

<p>入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 275 件 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 129 件 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。 医療事故対応の意思決定・報告・公報に関すること。 全死亡症例の確認に関すること。
<p>他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="checkbox"/>）（病院名：岐阜大学医学部附属病院）・無） 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="checkbox"/>）（病院名：新潟大学医歯学総合病院）・無） 技術的助言の実施状況 新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問による調査は中止となり、紙面調査のみで行うこととなった。紙面調査シートの内容確認、疑義照会・回答の際に必要なに応じて技術助言を行う形式とのところ、特に技術助言の該当事項はなかった。
<p>当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 体制の確保状況 医療福祉サポートセンターを設置している。

<p>職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> 承認要件に係る講習会 医療安全講習会「医療におけるコミュニケーションとクレームへの対応」 医療安全講習会「院内救急対応システム」 医療安全講習会「医療安全活動報告会」
--

(注) 前年度の実績を記載すること (の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者 令和3年12月8日 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2021年度 特定機能病院管理者研修」)

医療安全管理者 令和4年2月2日受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2021年度 特定機能病院管理者研修」)

医薬品安全管理責任者 令和4年1月25日 特定機能病院管理者研修 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2021年度 特定機能病院管理者研修」)

医療機器安全管理責任者 令和4年11月25日 特定機能病院管理者研修 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2021年度 特定機能病院管理者研修」)

(注) 前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価を2019年1月28日～30日に受審

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2021年11月1日 富山大学附属病院 HP の専用ページにて公表

・評価を踏まえ講じた措置

2019年8月9日 条件付認定(認定開始日2019年2月15日)

2021年6月25日 認定継続(改善審査日2021年5月13日)

2021年9月日 期中の確認として「自己評価シート」を機構に提出

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 医療の安全のために必要な資質及び能力に関する基準となっている。 病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力に関する基準となっている。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) <ul style="list-style-type: none"> ・ 公表の方法 富山大学ホームページへの掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付 す)	選定理由	特別の関 係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針に関する重要事項、病院の予算及び収支状況、職員の人事案件、医療安全に係る重要事項、諸規則の改正等 ・審議の概要の従業者への周知状況 富山大学附属病院連絡会議に各部署の代表者が出席し、その代表者部署内の職員に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 富山大学ホームページへの掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
林 篤志	○	医師	病院長
関根 道和		医師	医学部長
酒井 秀紀		薬剤師	薬学部長
早川 芳弘		薬剤師	和漢医薬学総合研究所長
戸邊 一之		医師	糖尿病代謝・内分泌内科長
猪又 峰彦		医師	呼吸器内科長
絹川 弘一郎		医師	循環器内科長
安田 一朗		医師	消化器内科長
佐藤 勉		医師	血液内科長
清水 忠道		医師	皮膚科長
足立 雄一		医師	小児科長
鈴木 道雄		医師	神経精神科長
辻井 農垂		医師	こどものこころと発達診療科長
野口 京		医師	放射線診断科長
齋藤 淳一		医師	放射線治療科長
深原 一晃		医師	心臓血管外科長
芳村 直樹		医師	小児循環器外科長
土谷 智史		医師	呼吸器外科長
藤井 努		医師	消化器外科長
松井 恒志		医師	乳腺科・内分泌外科長
吉岡 伊作		医師	小児外科長
黒田 敏		医師	脳神経外科長

秋岡 直樹		医師	脳血管内治療科長
赤井 卓也		医師	小児神経外科長
川口 善治		医師	整形外科長
中島 彰俊		医師	産科婦人科長
島 友子		医師	小児婦人科長
將積 日出夫		医師	耳鼻咽喉科長
北村 寛		医師	泌尿器科長
佐武 利彦		医師	形成再建外科・美容外科長
山崎 光章		医師	麻酔科長
野口 誠		医師	歯科口腔外科長
貝沼 茂三郎		医師	和漢診療科長
中辻 裕司		医師	脳神経内科長
北 啓一朗		医師	総合診療科長代行
山本 善裕		医師	感染症科長
若杉 雅浩		医師	救急科長
服部 憲明		医師	リハビリテーション科長
仁井見 英樹		医師	検査・輸血細胞治療部長
高岡 裕		医師	医療情報・経営戦略部長
吉田 丈俊		医師	周産母子センター長
平林 健一		医師	病理部長
林 龍二		医師	臨床腫瘍部長
長島 久		医師	医療の質推進部長，医療安全管理部長
加藤 敦		薬剤師	薬剤部長
丸池 小百合		看護師	看護部長
川崎 宏		事務	病院事務部長
中條 大輔		医師	臨床研究管理センター特命教授
寺元 剛		医師	臨床研究管理センター特命教授

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
富山大学ホームページへの掲載
- ・ 規程の主な内容
管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容となっている。
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
副院長 7 名 :
経営, 診療・薬事, 教育, 研究, 医療の質・医療安全, 看護, 広報・事務
病院長補佐 11 名 :
経営, 診療, 教育, 研究, 医療安全, 小児医療, 精神医療, 包括的脳卒中センター,
総合がんセンター, 薬事, 医療の質
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立大学病院長会議主催の病院経営次世代リーダー養成塾に参加

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて確認を行う。</p> <p>○学長又は病院長に対し、必要に応じて医療に係る安全管理についての是正措置を講じる。</p> <p>○実施結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法： 富山大学ホームページへの掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
森岡 浩一	福井大学医学部附属病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
木下 実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有 (無)	1
村田 美代子	富山県立大学看護部		医療を受ける者	有 (無)	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
国立大学法人富山大学コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス委員会を年2回程度開催しており、「役職員のためのコンプライアンスの手引き」の策定・啓蒙や、コンプライアンスに関する研修会の企画・立案を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
富山大学ホームページへの掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人富山大学役員会を設置し、附属病院の教員人事、予算について審議を行う等病院の運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年30回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年30回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 富山大学ホームページ掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 医療安全講習会で周知している。また、全職員に配布済みの「医療安全・感染対策マニュアル (ポケット版) P64 に掲載し、職員に対し周知させている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>院内情報誌である「かわら版」を定期的に発行し、患者様のみならず、関連する地域の関連病院へ配布し、本院で実施している先進的な医療等の情報を常に発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>痛みセンター、膵臓胆道センター、がんゲノム医療推進センター、乳がん先端治療・乳房再建センター、総合がんセンター、ジェンダーセンターが設置され、診療科をまたいで横断的に治療を行っている。</p>	